

# しのはらの風 20-10号

小淵沢町篠原区情報紙  
発行人; 区長 松井 皎  
編集; 藤代 富美男

## <自治会としての区の役割>

区民の皆さんは自治会としての区をどのように受け止めているのでしょうか。

- ・ 昔からあるものだし入っているのが当たり前だから区に入っている
- ・ 入りたくはないけどゴミのこともあるし入っていたほうがいいかなと思っている
- ・ 新しく来た土地になじむのには地域の人と積極的に交流した方がいいと思う
- ・ 地域を作っていくには行政の力も必要だが自治会の力も必要だ
- ・ 組の役をやるのは嫌だ

等々様々な意見があると思います。

「この篠原は俺達（私達）のまちだ。俺達（私達）が作り守っていくんだ。」

こんなことばを皆さんはどのように受け止めますか。例えば以前から住んでいる方はその通りだと思うかもしれませんが。あるいはそんなこといってもなるようにしかならないよというかも知れません。

また新しく移住して来た方はそんなことをいっても快適に過ごせる環境があればそれでいいんだというかも知れません。静かに最低限の付き合いで過ごすことがいいんだという意見もあるでしょう。

しかし自治というのは「この篠原は俺達（私達）のまちだ。俺達（私達）が作り守っていくんだ。」という精神にあるいは行き着くのかもかもしれません。少しでも皆さんがそんな気持ちを感じていてくれると区のあり方も役割もはっきりしてくると思います。

自治会は「快適で安全な地域づくり」を目的にしているものと思います。そのためにひとつずつ具体的な行動を起こしていかなければならないと考えます。環境のこと、ゴミのこと、街路のこと等様々なことがあります。これから求められることは「助け合い」が自然に出来る地域づくりではないかと思います。そのためには隣の人、近くの人の様子を知っておくことも必要になるかも知れません。難しいことの様思いがちですが昔は普通に行われていたように思います。みんなの知恵で考えたいと思います。

## <ゴミのこと>

2月21日(土)は資源ゴミの収集日です。ゴミの減量化はいくつかの方法があります。もっとも効果のある方法はゴミを出さないことです。次は燃えるゴミにしないで分別して資源ゴミにして出すことです。たしかにみんな燃えるゴミでも出せますが、面倒でも資源ゴミにして出しましょう。家庭の中でゴミの分類を話題に出すといいようです。

## <どんど焼きが行われました>

みなさんに準備（櫓組み）への協力をお願いをしていました「どんど焼き」が 1 月 18 日（日）に分校跡地の広場で行われました。本来は小正月（1 月 15 日）の行事ですが勤めに出ている家庭が多い現状では日曜日にあわせるしかありません。

午前中は公民館で子ども達やお母さん達が集まって「繭玉作り」です。米粉を練って、食紅で色付けして繭のようにまるくします。中には動物型のものもあったりして楽しそうですね。特製のおでんや甘酒も大きな鍋で作って軽トラックに載せて男達がしっかり支えて広場に運びました。

会場設営も整い 1 時から区長の挨拶に続いていよいよ大小二つの櫓に火が点けられました。火を点ける役は 12 歳の可愛い年女二人と 48 歳のお父さん二人でした。昨年のように風が強く吹くこともなく安心してみていられました。正月飾りや昨年のダルマが燃やされました。ダルマは悲願達成したのでしょうか。

勢いよく燃え上がる炎とパンパンと景気よくはじける音。青竹を櫓の材料にするわけが分かりました。炎と音で邪気を祓うのですね。

強い火が収まってからは準備した「繭玉」を焼いて食べる子ども達の楽しみの始まりです。大人たちも混じって焼いていますね。おでんも熱くてうまい、甘酒も・・・

参加した皆さんと残念ながら参加できなかった篠原区のみなさんの健康を祈って無事に終わりました。安全を見守ってくれた消防団の皆さんありがとうございました。

## <子どもクラブスキー教室>

今冬は暖かくて雪も少なくどうしたのかなと思わせるような冬ですが、去る 1 月 6 日に富士見高原スキー場で子どもクラブのスキー教室が開かれました。

幸い好天に恵まれ、4 名の篠原区内のスキー達者なおじさんインストラクターの指導のもと、小学生から中学生までの子ども 19 名と保護者の 4 名がゲレンデをスイスイ（どたどたコロリン？）と滑りました。朝 8 時半から午後 3 時までたっぷり滑って全員ケガもなく帰宅しました。スキー人口の減少がいわれている昨今ですがこの子達の中からオリンピック選手が出るといいですね。

## <松林が伐られて・・・>

4 組地内の松林が伐られています。小海線の踏切を上ったところから篠原北通りを越えてゴルフ場までの県有防風保安林の赤松林です。ここは上笹尾区の財産林ですが篠原区内にありますので篠原区の人にとって馴染み深いところです。

春にはタラの芽、コシアブラの山菜が採れ、初夏にはワラビが採れます。夏には木蔭

を作って私達に涼しさを分け与えてくれます。秋のキノコは少ないながらジゴボウ、チョコダケ、ムラサキシメジと楽しみの恵みがあります。冬は黒々とした太い幹と真っ白な雪のコントラストで大きな壁画を見せてくれます。

林は幅約 50m、長さ 500m ほどにもなりましょうか、細長い地形です。今回の伐採は東側半分を間伐し、その後を雑木林にするために数種類の木を植えるとのこと。そして数年経ったら西側の半分を間伐して同じように雑木林にする計画だそうです。間伐ということなので何本か高い赤松の木が残っています。申請の関係なのでしょう、あるいは補助金の関係なのでしょう、知るよしもありますがチョット変な感じもします。それでも随分明るくなりました。連載している「開拓の思い出」にもあるように、以前は篠原からハヶ岳まで大きな木が一本もなく山が見渡せたようです。30 年とか 40 年も前に植えられた赤松なのでしょう。篠原も少しずつ変貌していきます。

又 10 年 20 年経った頃の雑木林になった防風保安林も多くの恵みを私達に与えてくれるでしょう。

## <グランドゴルフ> (4 組 松本二郎さんからの寄稿です。)

北杜市広報の一月号に今年初めてのグランドゴルフが長坂町の山梨農業大学校で 1 月 17 日に開催されるという記事が載っていた。体力作りの一環のつもりで、これに参加するために、当日学校に行った所、一週間前に降った雪が融けないので、急遽長坂の総合グラウンドで開催するように変更になっていた。地元の人達には連絡があったらしいが私は小淵沢からでしたので分かりませんでした。10 時半から受け付けで、11 時競技開始でした。広報では 110 名の募集であったが、寒かったせいで参加したのは 70 名ぐらいでした。グランドゴルフは 1 チーム 5 ないし 6 人で行われるが、当日は 4 人で行われた。予定通り 11 時に開始された。最初のころは本当に寒かったが、最後の頃は次第に体が暖かくなり楽しいひと時を過ごすことが出来た。そして競技後、競技会が用意した暖かい生そばを食べて帰宅した。楽しい初グランドゴルフであった。興味のある方は毎月広報で募集があるので是非参加してみてください。

## <開拓の思い出>

「開拓の思い出」今回は「九、水道事業について」です。

「開拓の思い出」 九、水道事業について

志村 卓爾

入植者も女取川沿いに居住をしていた女取組合員は井戸を掘り井戸水を利用し水には不便を感じず生活が出来た、線路下に残った方々は共同井戸を掘り又は個人で掘って井戸水を使用して水には少しも不便を感じなかった。八原組合の小海線上で西に分散し

た方々と、女取組合から、線路下の西へ分散した方々と八人組の方々は井戸を掘っても（二十米）水が湧かず、平出の溜池へ水汲に行き汲んで帰って来たら桶に半分程になってしまった事も度々で、又女取川迄で汲みに来た方々も大勢だった。水の有難さ、水での苦労も大きかった。入浴なども週に一度の大変なことだった。水の確保には必死の戦いの毎日であった。

そこで組合では県に水道計画を申請、第三組と第四組の地区に水道を設置することをきめ死活問題として取上げ最善の努力を払う、その結果、女取川より、水を引込む計画を樹立し、水利権を持っている長坂上条、長坂下条、日野の三部落に生活用水として、もらい受ける請願を県を通して努力した結果、念願だった水利権を三部落の方々の絶大なる御厚意に依り水利契約の成立を見るに到る。第一期工事三千二百十米程。篠原開拓農協で水道工事を全額補助で請負って工事に取りかかる。設計等は県で、組合では青柳栄枝、渡辺秀吉、和光徳重さん達の指導のもとで、自力で組合員全員出動、スコップ、ツルハシで手掘りの作業、工程を毎日毎日割当労力奉仕、開墾の腕節で数ヶ月かかり水道工事完了通水、分水槽を松村直彦さんの耕地を借用し造る、分水槽から、第三組と第四組へ送水することが出来た、関係諸団体は勿論県町地域の皆様方の並々ならぬ努力と御援助のたまものと感謝に絶えませんでした。今なき先輩の方々には頭の下る思いです。良くやったの一言です。

其後生活も近代化し文化生活になって来て洗濯も機械で台所も改善され井戸水を汲み取り使用することすら大変不便を感じる様になり第一組、第二組、第四組の一部の方々にも水道を引く計画を再度県に申請、水利権の三部落へも請願し、今度は女取川湧水池から毎秒三リットルの水量をもらえることになり、年貢として上酒五升で契約が成立、二期工事は延長六千六百三十米と呼応時は難工事、二期工事も組合で請負って組合員総動員工事に着手、石又石で大きな石の所はパイプをまげて通すなど女取川湧水池点から横防火線を通し縦防火線上から帝京学園林地の中を借用第二分水槽を造り、第三、四組と第一、二組へ分水する。配管はビニール管で焼つぎで、配管は業者に請負わず、床堀、埋戻しは組合で全部手掘作業で、特に石の多い地形で難工事で全組合員の血の出る様な苦難と努力の結果だった。使用权は六十戸で通水出来る様になる。此の女取湧水は日本の百泉の中に選ばれた水で夏は冷たく冬は暖かく今更ながら大事業だった事を、これだけの水資源が確保できたことを後世に残し大切に長く保存使用出来ることを願っている。総延長約六千六百三十米内沢女取湧水より帝京山林出口迄で、千八百九十米、帝京山林出口より小野さん迄で三百八十三米、日向さん女取川迄で四百九米。

第一組大島さん迄で八百八十八米、第二組北原さん裏分水より中矢さん迄で五百五十米、第二組青山さん分水より茅野さん迄で百九十米、第三第四分水槽より、保坂さん迄で八百二十米、第三組保坂さんより和光さん迄で四百米、第四組田中さん迄で六百八十米、帝京山林内分水槽迄で四百二十米。